



お遍路から学んだ恩送り

10年前に独りで「ほぼ」歩き遍路を経験しました。1週間程度の日数で区切り7回に分けて、ちょうど50日間かかりました。 $365日 \times 40年 = 14,600$ 日間のうちの、たった50日間でしたが、人生に大きな学びを与えてくれた経験のひとつです。

お遍路は、弘法大師・空海が修行をしたお寺をめぐる、四国一周1,400キロの旅です。空海ゆかりの寺は「札所（ふだしょ）」と呼ばれ、徳島→高知→愛媛→香川の順に、一番札所から八十八番札所まで番号がついています。札所をお参りすることを「打つ」といいます。何番から打っても、何回に分けて打っても、何年かけて打っても、番号をとばして打っても、いっさいが自由です。そしてお遍路さんには、地元の方々が「お接待」をしてくれます。

さて。冒頭で「ほぼ」と書いた理由を説明します。結論、初日から「お接待」を受けて車に乗せていただいたからです。

お遍路では、閏年に逆打ちをすると功德が通常の3倍になるといわれています。2016年は閏年だったため、愛媛ではいちばん番号の若い四十番札所・観自在寺から、高知の三十九番札所を目指して出発しました。ここで残念なことが……遍路専用の地図を読みながら進むも、道を見失ってしまったのです。誤解しないでくださいね。地図には強いんですよ。ただ、初めましての歩き遍路で逆打ちなどするものではありません。

片手の数ほどの住宅しかない山あいの、軽トラックがやっと通れるくらいの狭い道でした。運よく畑仕事をされていたお母さんに道を訊ねることができ、この道その道あの道と3つの行き方を示していただきました。それだけでなく、県境まで車で送ってあげる、と仰ってくださいました。遍路には「お接待は基本的にお断りしない」という心構えがありますので、ありがたくお受けしました。お礼を伝えて別れてから歩いていると、別の車が止まってくれました。運転席の窓を開けるとお姉さんが、宿毛まで買いものにいくから送ってあげる、と声をかけてくださいました。以降も、洋服店の店主さんがみかんジュースをご馳走してくださったり、近所の方が札所の入口までご一緒してくださったり、道行く方が手づくりのティッシュケースを渡してくださったり、多くの方にとっても親切にしてくださいました。

この方々に直接お返しをすることは、現実的ではありません。そのため、日頃から遍路旅でいただいた恩を周りの方々にお返しする「恩送り」を心がけています。

スクールカウンセラー来校日（相談時間12:45～16:45）

9/8（火） 29（火）



電話での相談

電話による相談もできます。「青年期の探究」の最後のページに番号を載せているので、活用してください